

鹿島市総合教育戦略会議（第21回） 議事録（概要版）

1 開催日時 令和元年8月20日（火）10時00分から11時35分まで

2 開催場所 鹿島市役所 3階 庁議室

3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、中村教育委員会教育長、池田教育委員会委員、木原教育委員会委員、田代教育委員会委員
- ・市長部局 藤田副市長、大代総務部長、橋村市民部長、染川福祉課長、田崎企画財政課長、江口人権・同和対策課長、岩下総務課長、事務局（総務課職員 堀課長補佐、松尾係長、藤井主査）
- ・教育委員会部局 山崎教育次長兼教育総務課長、高本課長補佐、澤野指導主事、幸尾生涯学習課長
- ・傍聴者 なし

4 確認事項及び協議事項等

確認事項

第20回鹿島市総合教育戦略会議（H31.2.13）の議事録について

- ・議事録素案の内容を確認

協議事項

- (1) 総合教育戦略会議のこれまでの取り組みについて
- (2) 継続している議論について

その他

5 出席者の発言

司会：大代総務部長

1 開会（大代総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 あらためまして、おはようございます。このところは先生方の忙しさに焦点を当てて議論をしてまいりました。そろそろある程度の仕切りをして、これだけのことはやれる、これだけの課題が残っているという話になってまいります。いろんな課題があろうかと思っておりますので、それについて意見を交換しながらやっ
ていこうと思っていますので、よろしくお願ひします。

3 確認事項

第20回鹿島市総合教育戦略会議（H31.2.13）の議事録について

議事録（素案）の内容確認

4 協議事項

（議長＝樋口市長）

前回までに議論をした先生たちの多忙化については整理をして、中間報告ではないですけどとりあえずの仕切りをしていきたいと思います。まず、端的に言って解消に向けた具体的な施策についてご意見いただければと思います。

【職員の多忙化対策】

・学校徴収金口座振替化事業について

今年度中旬から開始予定であったがシステム構築等に時間を要し、保護者への説明も含めてしっかりやっていくということで開始をスライドさせて来年度4月からの開始を計画している。予算的にも今年度整備をしていく。

・支援員の増員について

確かに増員はしているが、学校の先生たちからの声としてはまだまだ欲しいという声がある。国が定めた基準はない。国としても特別支援については予算を付けてやっているところなので、それを受けて県や市町も努力していかなければならない。

・部活動問題について

先生方それぞれによってストレスだったりいろいろある。昨年度部活動の指針は出したので、負担の軽減になってきているのではないかと思われる。各学校から毎月休養日はいつだったという調査の報告もあっている。子どもたちのアンケート調査では、楽しみにしているのもあるし、好きなものをしてできたなら勝ちたいという割合が鹿島では多かった。もちろん部活は強制ではないので、入っていない生徒たちもいる。指導者を外部にアウトソーシングしたらというのもあり、昨年度から外部の指導員の制度ができて県が補助をしてくれている。（東部中に2名、西部中に1名）

・市からの照会文書への対応について

年間30件程度をお願いしている。主旨が分かり易くなってきている。部数についても先生が仕分けをしていたのを、市で仕分けまでして担任の先生に渡す形になり助かっている。

・教職員の多忙化の解消について

上記でも触れてはきているが、学校はこの位改善すれば多忙化が無くなるのかという取り方になる場合もあるので、まとめ方は議論をしておいてもらった方がいい。これはもうやりましたとなってしまうと、学校は余裕があるとなってしまうので。多忙化対策の一環として、夏休みの学校閉校日を1日増やして4日間に

した。この夏季休暇中しか中々休めないなので、積極的に休んでもらっている。学校の超過勤務時間は昨年度よりは少し減っている。ものすごく保護者に対して丁寧に対応しているので、早くても19時位まで学校に在籍しているのが常態化しているのではないか。そのあたりの改善策も全体的にいろんなことをやっていこうという感じになっている。教職員のメンタル面については、市内小中学校に200名位いる教職員の中で、メンタルで休んでいるのは1人。

【学力について】

・学力テストについて

県の学力テストについては見直しがあって、4月と12月にあったのが来年度から4月調査を廃止するようになった。学力テストの意味合いが今は平均点だけに注目されているが、本来はいろんな問題に当たってどれくらいできているか、できていないか。それについて今後の指導に役立てていくというのが本来の目的であると思う。注目されるのが平均点だけになってしまっているのが現状。ただ、今回中学校は大分差があるから非常に問題だと思っている。各学校にあった今後の指導方法を考えていきたいと思っている。

・鹿島の現状について

学力を語るときには、生徒の質的な問題、能力、まあやる気も含めて学校での学習の質・量、また教職員の教え方。この三つが複雑に絡み合っている。特に中学校になってだんだん学習内容が難しくなっていくときにうまく指導ができてなくて、あるいは子どもたちも難しいからやる気を失ってしまって、また量的にも少なくなって結果がついていかないというところが見受けられる。ただ、ここには現れていないが別の意識調査では、鹿島の子どもたちは読書によく親しんでいるという良い傾向が出ているし、生活についてもある程度規則正しくできている。やはり、学習の量的な面が足りないかなというところが顕著に出ているようだ。塾に頼る訳でもないが、県の調査で佐賀県の子どもたちは大体4割位通塾している。鹿島の子は10パーセント位低くて30パーセント位で、いわゆる通塾率も低いという結果が出ている。学校の先生が塾の先生をすることはできないが、反対に小学校の放課後学習を塾の先生にお願いしている。

・学童保育（放課後児童クラブ）について

放課後児童クラブは家庭的保育ということで、家庭に帰ったときの状態を維持するために子どもの見守りをするだけで、学習をさせるとか宿題をさせるという強制的な指針はない。家庭で子どもと保護者が「学童で宿題しておいで」という話し合いのもと自分たちで自主的にするというのが本来の趣旨であり、学習的な

面での支援はできない。

・学習環境について

学校の問題か家庭の問題かということになってくる。家庭環境について、一概には言えないが母子家庭・父子家庭が学習面で厳しくなってくる場面がある。統計を取っていないのではっきりとは言えないが、勉強どころではないと言う現状が目立つ場合がある。各小学校で15パーセント位だが、他と比べて高いかどうかは分からない。全ての父子、母子家庭の環境が悪いわけではない。

【次回への課題について】

それでは次回、何を対象としてこういうメンバーで話し合っていくか。

・塾の先生にきてもらって議論をするのはどうか。人によっては保育園の先生を呼んでとなるかもしれないが。幼稚園と保育園が小学校の予備軍としての園児にどういうふうな態度で教えているか、どのようなことを教えているかという話を聞くのもいいかもしれない。

・学力向上については今後も継続的に取り上げて頂いていいかと思う。

・今学校でボランティアの協力とかいろいろあっている。今後更に鹿島自体も高齢者が多いということでやっぱり学校のサポーターというか、そのあたりを増やしていくことがいろんな課題解決に繋がっていくのかなと思っている。登下校の見守りや、朝の時間に行うプリント学習の丸つけ、あるいは読み聞かせのボランティアなどで学校に関わってもらえればいいなと思っている。行政も関わってサポーターボランティアを増やしてお互いに高齢者の方に対しても子どもたちと触れ合ってよい効果が生まれるのではないかな。

・中高生については、地元をあまり知らないということを言われたりしている。ふるさと教育というのも大事ではないかな。

次回の会議について、これまでの取り組み、特に教職員の多忙化に対してのとりまとめを事務局から報告したいと思います。それから次回の議論のテーマとして学力向上への取り組み、高学年になるにつれ学力が伸び悩むというようなことに対しての要因を分析、幼児教育・保育の現状、ふるさと教育、学童保育等話が出ましたので、事務局の方でテーマを絞り込んでデータの収集ができる分は教育総務課と協力をしながら資料を作っていきたいと思います。

これをもちまして第21回の総合教育戦略会議を終了いたします。皆様お疲れさまでした。

(11:35 終了)